

あれこれ通信

しぶやとみこの議会報告

No, 28

2000年5月

渋谷とみ子の会 埼玉県比企郡嵐山町平沢254-64

Tel 0493-62-7997 / Fax 63-1727

地方分権は、明治維新、戦後改革につぐ改革です。

介護保険は、地方分権の最初の試金石です。

嵐山町の介護保険、スタートしてみる
と課題は山積みです。交通事故で全面介
助が必要な人、犯罪被害で車イス生活を

余儀なくさせられて
いる人、犯罪被害や
交通事故で、意識が
回復しないで病院に
入院せざるえない人、
末期ガンで自宅で療
養している人などの、
医療費、介護費が高
額であること、精神
的な苦しさ、生活が
切迫していることを
聞くと、すべての人

が介護保険の対象になると、本人、家族
の負担が少なくなるはずと…。そのため
には、ヘルパーの充実や、医療の変革な
どの施策が必要です。

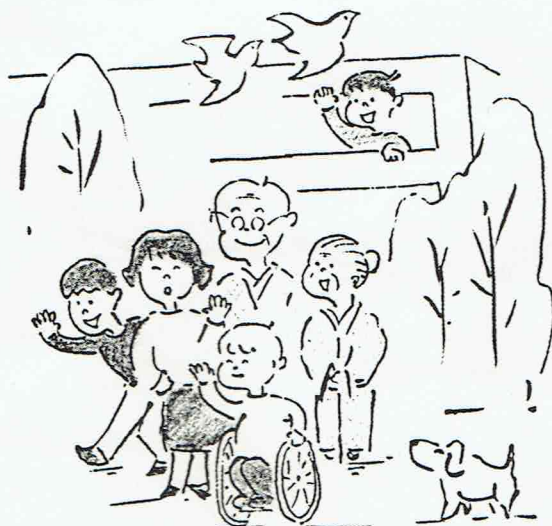
介護保険は、地方分権の試金石とい
いながら、大事な部分は国が決定しまし
た。嵐山町のシステムをつくるどころだけ

嵐山町が作りしました。「地方のことは
地方で決める」のが地方分権です。

嵐山町は日本ではじめての犯罪被害者

等支援条例をつく
りました。情報非公
開の警察の殻を破
いて、嵐山町と警察
の連携をつくるこ
とができたのは、す
ばらしいことです。

残念なことに、嵐
山町は、この条例を
創るとき、町は見舞
金、医療費助成は国
と考えました。司法



改革は国にしかできないのですが、医療
費助成は地方もできます。地方分権の時
代です。何度も生活の身近な問題を政策
として町独自の条例を創ることで、町が
「町のことは町で決める」力をつけます。
国に依存していた町政から、町のことは
町で決めるシステムに変革する時代です。